

ているるちゃんがいく！

Vol. **54**
2019.3

- **特集1** おきなわ女性財団 25年のあゆみ
- **特集2** 公益財団法人おきなわ女性財団 平成30年度講座等企画団体助成事業
2019年新春の集い シンポジウム「女性の政治参画について」
- 好評連載中！ すてきな親子にインタビュー
- 事業報告
- ご案内

県と社会の動き

県
国と社会



1992 県総務部知事公室に女性政策室設置
1993 「DEIGOプラン21」策定、「おきなわ女性白書」発表
1993 女性総合センター着工
1994 財団法人おきなわ女性財団 設立
1995 米兵3人による少女暴行事件、介護休業法可決
1995 県初の女性部長誕生
1995 平和の礎除幕式

1996 沖縄県女性総合センターていいる開館記念式典&オープニングイベント

1998 アジア・太平洋女性フォーラム開催

1998 男女共同参画社会基本法制定

2001 沖縄県知事公室「女性政策室」から「男女共同参画室」へ名称変更

2001 「配偶者暴力防止法」成立

2002 沖縄県女性相談所「配偶者暴力相談支援センター」開設
2002 沖縄県男女共同参画計画策定

2003 「沖縄県男女共同参画推進条例」制定

2006 「沖縄県女性総合センターていいる」から「沖縄県男女共同参画センターていいる」へ名称変更

2007 沖縄県男女共同参画計画（後期）策定

2007 「改正育児・介護休業法」公布

2011 東日本大震災

2011 第4次沖縄県男女共同参画計画策定～DEIGOプラン～

2010

2009 第2期指定管理開始（財）おきなわ女性財団と（株）エーシーオー沖縄との共同事業体

2011 男性相談員による男性相談開始

2015 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」公布

2012 第3期指定管理開始：（財）おきなわ女性財団と（株）かりゆしエンターテイメントとの共同事業体

2016 第5次沖縄県男女共同参画計画策定～DEIGOプラン～

2013 おきなわ女性財団は公益財団法人へ移行

2017 刑法改正（強姦罪の構成要件及び法定刑の見直し等）

2015 第4期指定管理開始：管理運営団体は第3期と同じ

「沖縄の今を築いた女性たち」に関連し「戦後70年過去から未来へ 次世代の女性たちへ伝えたいこと」開催
県内政党等の女性政策アンケート実施

2018 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」公布、施行

2016 ていいる開館20周年
「女性たちと共に歩んだ『ていいる』20年を語る」

2017 九州・沖縄地区男女共同参画センター会議を沖縄で開催

2018 全国女性会館協議会第62回全国大会を沖縄で開催

2020

自分らしい生き方のできる社会を目指して
おきなわ女性財団は、人権尊重の理念を社会に深く根付かせ、男女平等の達成を目指す男女共同参画社会づくりの活動を展開してきました。女性問題が遅々として進まずの感もありますが、これからも人権を大事にした男女共同参画社会づくりを目指します。

自分らしい生き方のできる社会を目指して

平成20年、公益財団法人制度が変わり、公益認定を受ける事業の中に男女共同参画社会の形成推進が規定されたことを受け、平成21年度第2回理事会で、公益法人への移行についての審議がなされ、移行認定申請が可決されました。諸々の手続きを経て、平成25年4月、おきなわ女性財団は公益財団法人に移行しました。

公益財団法人への移行

公の施設を効果的かつ効率的に管理運営し、県民サービスの向上を図ることを目的として地方自治法が改正され、県は沖縄県女性総合センターについても平成18年4月から管理運営制度を導入しました。運営費用と職員数の削減など行政改革の面がクローズアップされた制度だけに、移行に関して厳しい課題がつけられました。利用料金の減収は指定管理者の負担となるので財団の財政状況に多大な影響を与えます。指定管理者に指定されない場合、事業規模や組織体制を大幅に縮小されかねない等々。平成17年度臨時理事会で、指定管理者申請についての審議がなされ、指定申請の承認が可決。可決により指定申請を行い、平成18年4月、おきなわ女性財団が男女共同参画センターの第一期指定管理者となりました。

指定管理者制度への移行

おきなわ女性財団のオープニングイベントは、「語らばら女性たちの未来」をテーマに埼玉県坂東真理子副知事、神奈川県室谷千英副知事、そして沖縄県東門美津子副知事による「女性副知事サミット」や「戦後50年・おきなわ女性のあゆみ展」、「わったーはなしんちちとらせ！」男の本音トーク」等が行われ、笑顔あふれる女性たちがセンターていいるのホールを埋めつくしました。



「女性たちと共に歩んだ『ていいる』20年を語る」座談会参加者
左から垣花みち子、狩俣信子、東門美津子、大城貴代子、渡久地澄子

おきなわ女性財団の動き

財団

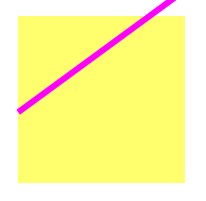
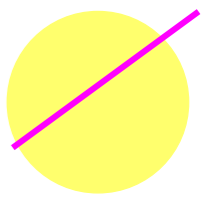
センターと女性財団のスタート

女性問題懇話会が県女性総合センター設置を提言して11年。元号も昭和から平成に変わり、平成6年8月によりやく着工され、平成8年8月、オープンにこぎつけました。センターの供用開始に伴い、おきなわ女性財団は事務所を女性総合センター内に移転し本格的に「女性の地位向上及び社会参画の促進を図り、男女共同参画型社会を築いていく」ためのスタートを切りました。
おきなわ女性財団のオープニングイベントは、「語らばら女性たちの未来」をテーマに埼玉県坂東真理子副知事、神奈川県室谷千英副知事、そして沖縄県東門美津子副知事による「女性副知事サミット」や「戦後50年・おきなわ女性のあゆみ展」、「わったーはなしんちちとらせ！」男の本音トーク」等が行われ、笑顔あふれる女性たちがセンターていいるのホールを埋めつくしました。

女性総合センターの建設と女性財団の設立

昭和58年3月、沖縄県女性問題懇話会が「沖縄県女性総合センター」の設立を知事に提言。昭和59年4月、県は「婦人問題解決のための沖縄県行動計画」においてセンター建設促進を位置づけましたが、施設用地の確保や予算などの目的がたらず、センター建設は暗礁に乗り上げました。平成4年、県に女性政策室が設置されるとともに国の交付金の投入、自治研修所との併設計画を整えるなど、センター建設の動きは一気に進展。平成5年5月、女性総合センター建設基本構想が策定され、9月に女性問題懇話会が「DEIGOプラン21」の推進を支援し、「女性総合センター」の機能の遂行責任主体として「おきなわ女性財団」設立を提言。これを受け、県は平成5年12月20日、「おきなわ女性財団」を設立しました。

公益財団法人
おきなわ女性財団
25年のあゆみ



情報誌「ていいるちゃんがいっしょ」53号 最新号



「戦後70年 過去から未来へ 次世代の女性たちへ伝えたいこと」チラシ (2015)



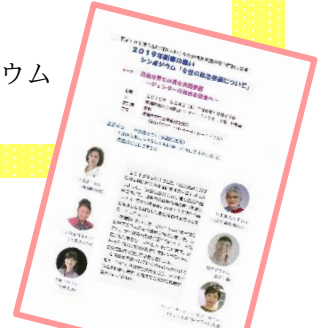
全国女性会館協議会第62回全国大会in沖縄
上野千鶴子氏による基調講演

(公財)おきなわ女性財団では、賛助会員である地域の団体や地域グループ等が、男女共同参画社会を目指して行う講演会や学習会等の活動を支援するために助成金を交付しています。

【平成30年度助成事業】

- 2019年新春の集い シンポジウム「女性の政治参画について」沖縄県女性団体連絡協議会
- 「第6回トータルビューティフェア&相談会」相談会inトータルビューティフェア事務局
- 「読谷村職員労働組合女性部40周年記念講演会」読谷村職員労働組合女性部

今回は上記の助成事業の中でも、沖縄県女性団体連絡協議会が主催したシンポジウム「女性の政治参画について」の内容を紹介します。



2019年新春の集い シンポジウム「女性の政治参画について」
テーマ 政治分野での男女共同参画～ジェンダーの視点を議会へ～

基調報告 系数 慶子 氏 (参議院議員)
シンポジスト 仲栄真 恵美子 氏 (北谷町議員)
真栄田 絵麻 氏 (宜野座村議員)
仲間 光枝 氏 (南城市議員)
城間 真弓 氏 (読谷村議員)
コーディネーター 崎原 千尋 氏 (沖縄キリスト教学院大学特任講師)



基調講演 系数慶子氏(参議院議員)

日本のジェンダー平等の状況を報告。衆議院議員465人の中で女性は47人で10・1パーセント、参議院議員では242人中50人で20・7パーセントと世界の中でも日本の政治参画における男女格差は大きく、ジェンダーギャップ指数が149カ国中の110位と世界でも遅れをとっていると説明。2018年には長い道のりをかけようやく『政治分野における男女共同参画推進法』が成立した。「その中身が具体的に進むためには、女性たちの活動が大切で、女性たちの力を発揮できるチャンスが回ってきたら、遠慮せずにチャレンジして欲しい。選挙費用や家族の反対などもチャンスがあれば挑戦できる状況づくりや応援をしてバトンタッチして行きたい」と話した。

仲栄真 恵美子 氏(北谷町議員)

旧コザ市役所に臨時職員で採用された時の面接で「女性は生理休暇や産休をとるから正社員にはなれない」と面と向かって言われ悔しい思いをした。その後、先輩女性議員から後任にと立候補を勧められ当選。現在3期目を務める。「まず自身が議会の中で、今まで不条理と思っていたことを直したい。意見を言い続ける事が大事。皆さんと一緒に頑張っていきたい」と話した。

真栄田 絵麻 氏(宜野座村議員)

宜野座村出身、高校卒業後、兄弟を育てる

ため、那覇に出て46年働いた。高校まで育ててくれた故郷に恩返しをしたいという思いで宜野座村に帰郷。ある会合の中で「いながらぬーないが(女にながでできる)」と言われ奮起。現在2期目を務め、宜野座村を変えるため日々精力的に活動している。

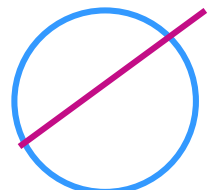
仲間 光枝 氏(南城市議員)

父親の仕事の関係で転勤が多く、大人になり根付いたのが佐敷町(※1)。親戚も知人友人もなく、子育てを通しやっと居場所を得ることができた。その後、男女共同参画懇話会の委員活動や勉強会を通し、立候補を決意。「女性が一歩踏み出す時に背中を押してくれるパートナーの存在も大きな要因」となり女性議員の数をゼロから1にした。今後は「女性議員増加のため、女性のつながりや女性力を発掘したい」と話した。

(※1) 2006年に南城市に併合

城間 真弓 氏(読谷村議員)

読谷村出身、両親が政治的な話をあまりしない自営業の家庭で育った。その後結婚、子育てを通して沖縄の問題が子どもたちの未来の問題と感ずるようになり活動を始めた。しかし、政治家に要請しても反応がなく声を通す事ができなかった。その後、何年もためらっていたが「政治はみんなの足元に広がっているものだ。諦めていたお母さんたちの声を議会に届けたい」という思いで立候補し当選。現在1期目となる。



すてきな親子にインタビュ
沖繩の紅型をあたらしいかたちで伝える

沖繩県宜野湾市の住宅街にある紅型研究所 染千花（そめせんか）の知花千賀子さん、知花幸修さん親子にお話を伺いました。

紅型職人になったきっかけ

高校を卒業後、ファッション関係の短大へ進学、東京でウエディングドレスのデザインを数年していたという千賀子さん。沖繩に昔からあった紅型を洋服に活かせたら、と思いUターン。沖繩県工芸指導所（当時）へ通い紅型を一から勉強した。それから40年。現在は親子で工房を運営している。

そんな母の背中を見てきた幸修さんは、「いつかは紅型職人に！」の予想に反して、当初は「紅型にまったく興味がなかった」という。ただ幼い頃から屋上いっぱいにチョークで絵を書いたり、大きな板に紙を張って落書きをするのが大好きだった。そんな姿をお母さんも見守ってきた。その影響もあり大学は沖繩県立芸術大学工芸学科染色コースへ進学するも、卒業後はしばらくフリーターをしていた。「2年ほど過ぎたとき、仕事のことを真剣に考えたんです。その時「染色家です」って言えばかっこいいなと思い自分から母の工房に入りました」と幸修さん。千賀子さんは「フリーター生活に限界があったの

ではないでしょうか。ふとしたときに「やってみる？」と声を掛けたんです。本人は自分からといってはいますが（笑）」



左から知花千賀子さん、知花幸修さん（後ろの紅型は幸修さんの作品）

影響し合える関係と伝統のこれから

二人は全くといっていいほど作風が違う。紅型は、型紙のデザインから染めまですべての工程をひとりで行う。伝統工芸としては全国的にも珍しい染め物だ。その分作家の個性が存分に出る。

「最初の2年は母の作品の模倣ばかり制作していました。それは今の作風の土台になっていと思う」と幸修さん。「紅型は個性が出やすいので、今後も彼なりの表現を追求し発展させ、いつかは紅型界に貢献して欲しいと思う」と千賀子さん。

紅型研究所 染千花
そめせんか

知花 千賀子
ちばな ちかこ
知花 幸修
ちばな ゆきなが

幸修さんは同年代でも紅型を知らない人がいるのにもどかしさを感じている。「紅型の裾野を広げ、敷居の高さや古臭いというイメージを変えるためにどうしたらいいかというのを常に考えている。そして僕個人としては色々な要素を取り入れ、紅型をアートとして世界に発信して行きたい。また、伝統を大切にしている職人さんもいるので、間口を広げるために僕が率先して送り手になりたい。大量生産消費から価値のある物を求める買い方ができる時代になってほしい」と幸修さん。

職人と育児

昨年、お子さんが生まれ現在9ヶ月の赤ちゃんのお父さんでもある幸修さん。職人としても父としても日々頑張っているという。

「結婚する前は家の事はあまりしませんでした。今では朝食や夕食を作ったり、掃除や後片付けもしてるそうなんです。びっくりですね（笑）」と千賀子さん。「妻が県外から移住したので、できるだけサポートして一緒に育児をしたいんです。僕が気づかないストレスや不安があると思うんですよ」と幸修さん。職人として、沖繩の紅型界に新しい風を吹き込むのか。これからの紅型研究所染千花に期待したい。



沖繩県内で開催された幸修さん個展時の作品



（左上）幸修さん、（中央）千賀子さん（右下）幸修さんの作品

紅型研究所 染千花
＜お問い合わせ＞
TEL: 098-890-0560
沖繩県宜野湾市嘉数3丁目16-7



事業報告

(公財) おきなわ女性財団

地域リーダー養成講座

○第1回「地域リーダーの役割とリーダーシップ」

実施日：2月2日（土）

講師：関 幸子 氏

（ローカルファースト研究所 所長/代表取締役）

場 所：ていする3階 研修室1・2

内 容：日本の地域を取り巻く時代の変化（IT革命、法律の制定）や地方創生への取組みを挙げ、リーダーシップとマネジメントの違いを紹介。時代に合った地域づくりが地域リーダーとなる人には必要と話した。



関 幸子 氏

○第2回「先輩リーダーに学ぶ！地域で人気の取組み・人気の企画」

実施日：2月16日（土）

講師：南 信乃介 氏（繁多川公民館 館長）

場 所：ていする3階 研修室1・2

内 容：身近なところで出来る持続可能な街づくりや社会教育を視点に活動を行っている繁多川公民館。「GESHUKUプロジェクト」、公民館と小学・中学・高校の連携や「すぐりむん認定」、「あたいぐわあ〜プロジェクト」などの地域で取り組んでいる事業を紹介した。



南 信乃介 氏

○第3回「チームビルディングでファシリテーション」

実施日：3月10日（日）

講師：仲間 暁子 氏（株式会社note 代表取締役）

場 所：ていする3階 研修室1・2

内 容：ファシリテーションについての定義や基本動作を学び、会議の種類や最初にする事、会議の際の困りごとなど困った場面の対処法をグループワークで実践した。「ファシリテーターの役割、重要性がわかりました」「とても勉強になった」と受講者からの声があった。



仲間 暁子 氏

防災講座「あなたのまちにも災害は、やってくる！」

○第1回「地域の災害と特色を知る」

実施日：2月9日（土）

講師：神谷 大介 氏

（琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース 准教授）

場 所：ていする1階 ふれあいサロン

内 容：沖縄県での過去の災害事例や、身近に潜む「リスクのある場所」の見つけ方の紹介。「想定」は1つのパターンなので「想定外」が必ずあることなどを全国の過去事例から説明した。



神谷 大介 氏

○第2回「わたしにもできる防災・減災」

実施日：3月9日（土）

講師：坂田 静香 氏

（特定非営利活動法人男女共同参画おおた 理事長）

場 所：ていする1階 ふれあいサロン

内 容：過去の災害事例から男女共同参画視点での災害（復興）の必要性を説明した。



坂田 静香 氏

スマートフォン・タブレット教室「ふたりではじめる シニアによるシニアのためのスマホ教室(ペア編)」

○入門編

実施日：2月22日（金）

○基礎編

実施日：2月25日（月）

○応用編

実施日：2月27日（水）

講師：那覇市シルバー人材センター
房前 三男 氏&スマホ班スタッフ

場 所：ていする1階 ふれあいサロン



房前 三男 氏

休憩時間にはお茶とお菓子で仲間とゆんたく♪



健康教室「ミニトランポリンで健康運動」

実施日：3月3日（日）

講師：尾尻 孝子 氏

（うちな～ミニトランポ、
HAT-Robics JAPAN 公認インストラクター）

場所：ているる1階 フィットネスルーム

内容：ミニトランポリンを使用して、足踏みをしたり、手足をあげたりして足腰や体幹を鍛える運動をした。10代から70代までの参加があり、地上で運動をするより負荷が少ないため今後も継続的に続けることができる。



尾尻 孝子 氏



ワークライフバランス講座「冷蔵庫から始めよう！わたしのワークライフバランス♪ ～片付けのコツを知って楽々生活！～」

実施日：3月16日（土）

講師：渡名喜 かずみ 氏

場所：ているる1階 ふれあいサロン

内容：「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」を考える上で「時間の使い方」はとても重要です。ゆとりのある時間、ゆとりのある暮らしのために「冷蔵庫のお片づけ&活用術」というテーマで日常生活においてすぐに実践できるポイントを教えていただきました。



渡名喜 かずみ 氏



沖縄県男女共同参画センター管理運営団体

薬剤師によるおくすり講座

○第1回「薬を飲むとき、使う時、守って欲しい事」

実施日：1月31日（木）

講師：前濱 朋子 氏（沖縄県薬剤師会副会長、つる薬局勤務）

場所：ているる3階 創作室

内容：正しい使い方をしないと効き目が現れないなど、薬の働きについての話があった。薬を飲む時に必要な水の量、水で飲む理由については実験を行い説明があった。さらに、色々な薬の使い方を教わった。



○第2回「セルフメディケーションって知っていますか？」

実施日：2月14日（木）

講師：前濱 朋子 氏（沖縄県薬剤師会副会長、つる薬局勤務）

場所：ているる3階 創作室

内容：「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は、自分で手当てすること」と世界保健機構（WHO）は定義していると説明があった。また、確定申告における従来の「医療費控除制度」とドラッグストアで購入しているお薬の費用が対象となる「セルフメディケーション税制」について教わった。



ハーブ料理教室

実施日：2月27日（水）

講師：新里 みどり 氏（ハーブの里みどり農園代表）

場所：ているる3階 生活実習室

内容：【メニュー】・チキンのハーブマリネード焼き
・ミネストローネ・和風サラダ

材料の殆どが採れたての新鮮な自家生産のハーブ・野菜を使用。家庭でもできる料理を教わった。



ているる相談室 相談時間変更のお知らせ

2019年4月2日(火)より女性相談の相談時間が変更となります。

変更前10:00～20:00 → 変更後10:00～17:00

～ているる相談室～

沖縄県男女共同参画センター「ているる」では相談窓口を開設しています。
相談料は無料(通話料は相談者負担)、秘密(プライバシー)を固く守ります。

| | 女性相談 TEL: 098-868-4010 | | 男性相談 TEL: 098-868-4011 |
|------|---|--|---|
| | 一般相談 | 特別相談 | 一般相談 |
| 日時 | 火曜～土曜 10:00～17:00 | | 日曜と月曜 10:00～16:00 |
| 相談方法 | 電話/面接(面接は予約制) | | 電話のみ |
| 相談内容 | 生き方、性格、夫婦・親子関係、対人関係をはじめ様々な悩みや問題に関する相談を行っています。 ◆国際相談 外国人との結婚・離婚などの様々な問題に関する相談。 | 女性問題に詳しい専門家による各種相談を行っています。 ◆法律相談(月2回) ◆こころの健康相談(月1回) ◆国際法律相談(月1回) | 男性からの相談を男性の相談員がお受けします。 男性が抱える家庭や職場での人間関係、生き方、心や体の悩みなどの相談を電話でお受けします。 秘密は厳守しますので、ひとりでお悩み、お気軽にお電話ください。 |
| お休み | 毎週日曜と月曜、年末年始(12/29～1/3) | | 祝日にあたる月曜、年末年始(12/29～1/3) |

～賛助会員入会・継続のご案内～

当財団の活動に賛同し、一緒に歩んでくださるみなさまのご入会をお待ちしております。

頂いた会費は各種事業などに活用させていただきます。

- 特典：情報誌「ているるちゃんがいく！」や講演会・講座情報などを文書にてお届けいたします。
講演会や講座等へ優先的に参加、当財団が主催する有料講座は会員価格で受講できます。

- 年会費：個人会員：3,000円 学生会員：2,000円 団体会員：10,000円

※新規は、入会時期(申込日)により金額が異なります。

財団HPをご覧になるか、(公財)おきなわ女性財団(098-868-3717)までお問合せください。

(公財)おきなわ女性財団 賛助団体会員のご紹介

～当財団の活動に賛同し、一緒に歩んでくださっている団体会員のみなさまをご紹介します～

特定非営利活動法人あきみよ、糸満市女性団体連絡協議会、株式会社オーディフ、株式会社沖縄銀行、沖縄空輸株式会社、沖縄県女性団体連絡協議会、沖縄県女性の翼の会、沖縄県済州会、沖縄県母親大会連絡会、沖縄セルラー電話株式会社、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社沖縄富士通システムエンジニアリング、有限会社オプティカル・ワコー、オリオンビール株式会社、株式会社かりゆし、株式会社かりゆしエンターテイメント、株式会社カルティバート、金秀沖縄ピーシー株式会社、金秀興産株式会社、金秀鋼材株式会社、金秀アルミ工業株式会社、金秀商事株式会社、金秀鉄工株式会社、株式会社金秀本社、国際ソロプチミスト沖縄、子育て応援隊NPOいっば、しのめケアハウス、ジョイネス沖縄、相談inトータルビューティフェア事務局、株式会社ティーシー、ているるパートナーズ、名護市各種団体女性代表ネットワーク協議会、那覇魚類株式会社、合同会社ネットクリエイト、株式会社ビック沖縄、ファームINナビの里、保育サポーターゆいkids、読谷村職員労働組合女性部、ワールド王修会、(50音順)

沖縄県男女共同参画センター「ているる」 〒900-0036 沖縄県那覇市西3-11-1

発行月：平成31年3月

表紙写真 大屋 玲奈

発行：公益財団法人おきなわ女性財団

TEL: 098-868-3717 FAX: 098-863-8662

HP: <https://www.okinawajosei.org/>

沖縄県男女共同参画センター管理運営団体

TEL: 098-866-9090 FAX: 098-866-9088

HP: <http://www.tiruru.or.jp/>